

HIV 検査機関における MSM の受検動向

研究協力者：岳中美江（特定非営利活動法人 CHARM/エイズ予防財団）、
市川誠一（名古屋市立大学）

研究要旨

MSM 受検者の動向を把握するため大阪・土曜日常設 HIV 検査事業において受検者に対して質問紙調査を実施した。質問紙調査の協力者全体のうち MSM 受検者は約 2 割（同性間性的接触を感染不安要因として受検した男性は 2004 年 333 人、2005 年 430 人、2006 年 373 人）を占めていた。

また、MSM 受検者中の質問紙調査の回答率から推定した MSM 受検者中の HIV 陽性割合は 3.9～4.7%、梅毒検査を受けかつアンケート回答が得られた MSM 受検者のうち TPHA 陽性結果と判定されたのは 9.5～13.2%、クラミジア抗体検査を受けかつアンケート回答が得られた MSM 受検者のうち IgG 抗体陽性と判定されたのは 9.9～11.7%であった。

例年 20 歳代、30 歳代が多くを占める一方で、2004 年に比べると 2005、2006 年には 40 歳代以上の MSM の割合が増えており、年齢分布にばらつきがみられた。

当検査機関について、MSM 受検者はインターネット以外からも情報を得ていることがわかった。特に MASH 大阪の啓発資材等が検査相談についての情報源になっていることが示唆された。

MSM 受検者の HIV 受検経験率は年々高くなっている傾向があり、心配なことがあってから比較的早い時期または定期的に、自身の感染リスクを意識して具体的な動機をもとに検査相談を利用している傾向にあると考えられる。過去 6 か月間のアナルセックスにおけるコンドーム常用率は 2005 年 36%に比べて 2006 年は 50.9%と高率になっていた。また、受検経験者のほうが初回受検者よりも過去 6 か月間のアナルセックスにおけるコンドーム常用率が例年高いことがわかった。しかし、受検することが健康行動に影響する可能性については今後の検討課題であるとする。

A. 研究目的

MSM への予防介入による効果を受検行動の側面から評価するため、検査機関（大阪・土曜日常設 HIV 検査事業）と共同で調査を実施した。大阪・土曜日常設 HIV 検査は、特定非営利活動法人 CHARM が大阪府・大阪市から委託を受け、毎週土曜日午後到大阪市北区堂山で HIV や性感染症検査を無料匿名で実施しているものである。この検査機関を本研究の対象に選んだ理由は、MASH 大阪が活動している地域に位置していること、MASH 大阪がこの検査機関を広報・紹介していること、MASH 大阪

が実施した臨時 HIV 抗体検査の終了後まもなく検査事業を開始したこと、検査の体制（質的内容）を充実する工夫が見られること、受検者に対して質問紙調査を実施していることなどである。MSM の一定の利用があるこの検査機関における受検者動向の把握により、MASH 大阪の啓発対象層の HIV/性感染症の感染状況や予防行動が観察できるものと思われる。本稿では 2004 年から 2006 年の MSM 受検者動向を報告する。

B. 研究方法

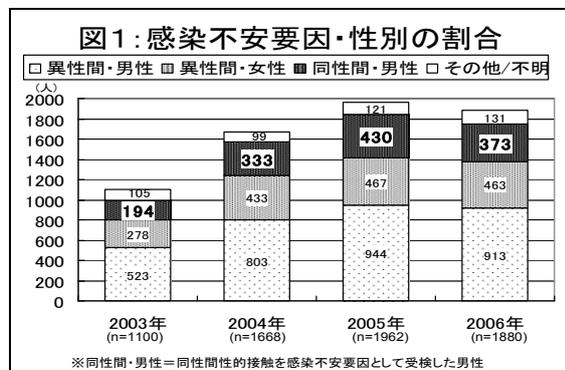
大阪・土曜日常設 HIV 検査において、無記

名自記式質問紙を受検者全員に配布し、採血日行程終了時に任意に記入してもらった。2004年1月～12月の受検者総数1925名のうち質問紙回答に協力が得られたのは1668名(有効回答率86.6%)であった。2005年1月～12月の受検者総数2212名のうち質問紙回答に協力が得られたのは1962名(有効回答率88.7%)であった。2006年1月～12月の受検者総数2126名のうち質問紙回答に協力が得られたのは1880名(有効回答率88.4%)であった。質問紙協力者のうち、同性間の性的接触を感染不安要因として受検した男性をMSMとして集計した。

C. 研究結果

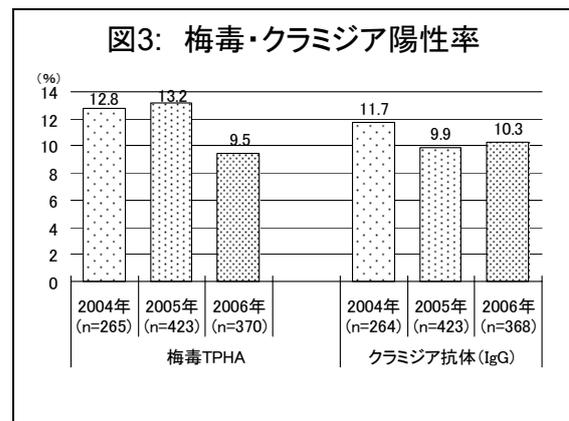
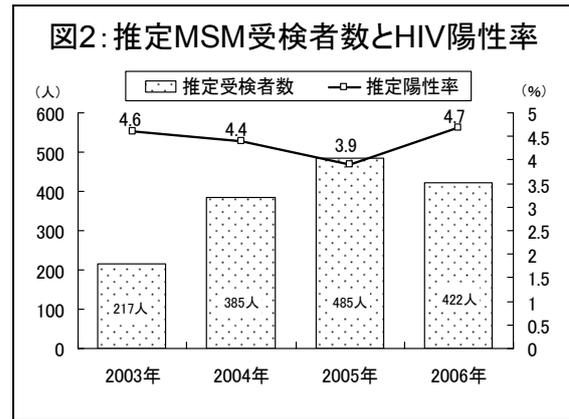
(付表1～3 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要 結果参照)

質問紙調査の協力者のうち、同性間性的接触を感染不安要因として受検した男性(以下MSM)は2004年333人、2005年430人、2006年373人であった(図1)。



質問紙調査の回答率から推定したMSM受検者中のHIV陽性割合は3.9～4.7%であった(図2)。

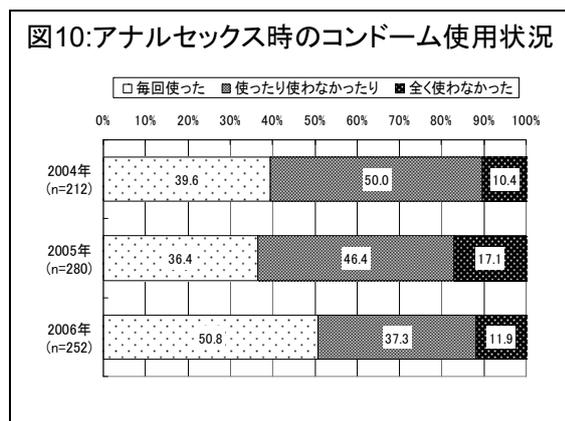
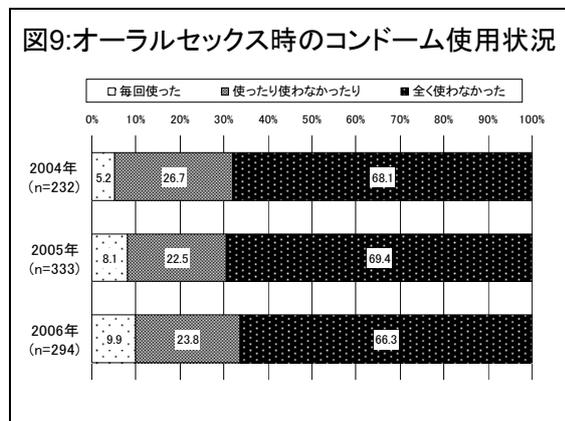
また、梅毒検査を受け、かつアンケート回答が得られたMSM受検者のうち、TPHA陽性結果と判定されたのは9.5～13.2%であった。クラミジア抗体検査を受け、かつアンケート回答が得られたMSM受検者のうち、IgG陽性結果と判定されたのは9.9～11.7%であった(図3)。



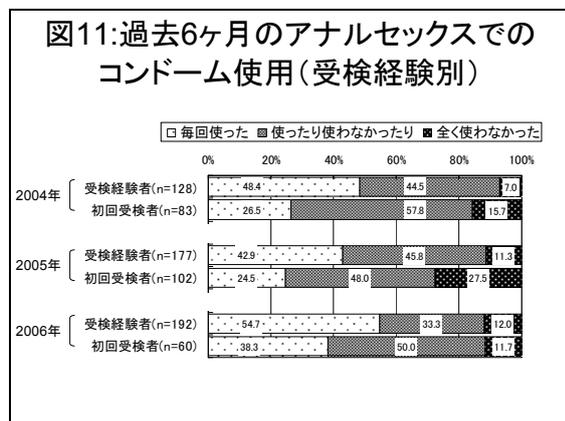
MSM受検者の年齢分布、居住地を表1に示した。年齢分布をみると、2004年は20代後半と30代前半が全体の半数以上を占めたが、2006年には20代前半・後半、30代前半・後半が大差ない割合になっており、分布にばらつきがみられた。2005年、2006年は40代以上も約2割を占めていた。居住地をみると、MSM受検者の65～70%は大阪、次いで兵庫であり、近畿全域からの利用がある。

この検査機関を知った情報源(複数回答)として、インターネット利用が過半数と最も高い割合になっている。MSM受検者はインターネット以外からも情報を得ている傾向があり、インターネットに次いで友人・恋人20%強、ポスター・パンフレット・広報誌15%強であった。また、飲食店・飲み屋で情報を得ているMSMもあり、MASH大阪やDISTA、SAL+という記載もあった(図4)。

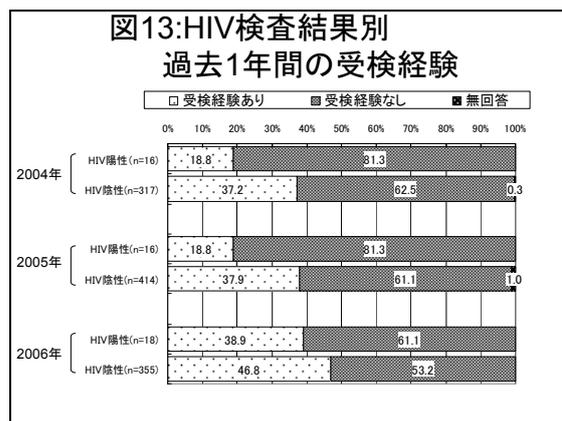
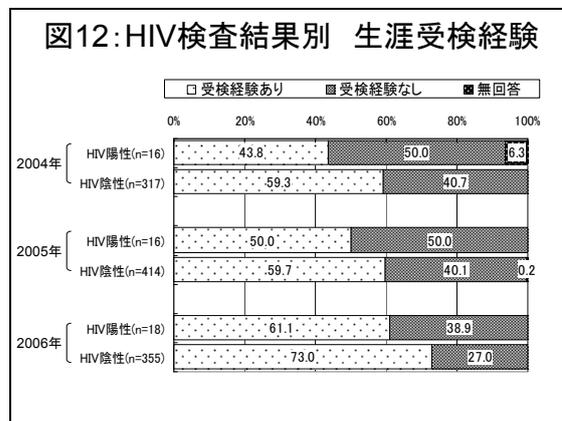
ト出会い系で知り合った相手であった。また、過去6ヶ月間のセックスにおけるコンドーム常用率は、オーラルセックスでは5~10%、アナルセックスでは36~51%であった(図9、図10)。



受検経験別(これまでに受検したことがある者と初めて受検した者)にアナルセックスにおけるコンドーム使用をみると、受検経験者の方が初回受検者よりもコンドーム常用率が高かった(図11)。



HIV 検査結果別に生涯受検経験および過去1年間の受検経験をみると、受検経験率が年々増加傾向にあるものの、HIV 陰性のほうが陽性よりも受検経験率が高かった(図12、図13)。



D. 考察

MSM 受検者の動向を把握するため大阪・土曜日常設 HIV 検査事業において調査を実施し、質問紙調査の協力者全体のうち MSM 受検者は約2割を占めていることがわかった。また、MSM 受検者中の HIV、梅毒、クラミジアの陽性割合が明らかになった。例年20歳代、30歳代が多くを占める一方で、2004年に比べると2005、2006年には40歳代以上のMSMも割合が増えており、年齢分布にばらつきがみられた。当検査機関について、MSM 受検者はインターネット以外からも情報を得ていることがわかった。特にMASH大阪の啓発資材等が検査相談についての情報源になっていることが示

唆された。MSM受検者のHIV受検経験率は年々高くなっている傾向があり、心配なことがあってから比較的早い時期または定期的に、自身の感染リスクを意識して具体的な動機をもとに検査相談を利用している傾向にあると考えられる。また、受検経験者のほうが初回受検者よりも過去6か月間のアナルセックスにおけるコンドーム常用率が例年高いことがわかった。受検経験により常用率が高くなっているのか、もともと常用している人が多く受検しているのかは不明であるが、HIV検査結果別に受検経験をみると、陰性結果のほうが陽性結果よりも受検経験率が高い傾向がみられたため、受検することが健康行動に影響する可能性については今後の検討課題であると考えられる。

E. 発表論文等

国内学会発表

- 1) 岳中美江, 後藤哲志, 土居加寿子, 松浦基夫, 榎本てる子, 藤山佳秀, 市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 抗体検査事業における受検者の動向, 第 19 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2005 年, 熊本
- 2) 山中京子, 岳中美江, 岡本学, 榎本てる子, 土居加寿子, 横田恵子: HIV 抗体検査前後の個別相談～CHARM が実施した土曜抗体検査における相談活動の分析より, 第 19 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2005 年, 熊本
- 3) 後藤哲志, 榎本てる子, 岳中美江, 土居加寿子, 松浦基夫, 藤山佳秀: 土曜日常設抗体検査事業～結果お知らせの経験 (2004 年度), 第 19 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2005 年, 熊本
- 4) 岳中美江: 大阪土曜日常設検査事業における検査体制～検査体制構築の成果と課題, HIV 検査・相談の現状と今後のあり方シンポジウム, 第 19 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2005 年, 熊本
- 5) 岳中美江, 伊藤悠子, 飯沼恵子, 榎本てる子, 岡本学, 後藤哲志, 土居加寿子, 松浦基夫, 山中京子, 横田恵子, 藤山佳秀, 市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 抗体検査事業における受検者の動向 (2005), 第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2006 年, 東京
- 6) 岳中美江, 榎本てる子, 岡本学, 土居加寿子, 松浦基夫, 山中京子, 藤山佳秀, 市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における受検者の動向 (2006), 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007 年, 広島
- 7) 岳中美江, 松浦基夫, 榎本てる子, 土居加寿子, 山中京子, 岡本学, 藤山佳秀, 市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における陽性結果受取から医療機関受診までの期間, 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007 年, 広島
- 8) 松浦基夫, 岳中美江, 岡本学, 土居加寿子, 榎本てる子, 山中京子, 藤山佳秀, 市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における「結果お知らせ」担当者に対する研修体制, 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007 年, 広島
- 9) 山中京子, 榎本てる子, 土居加寿子, 岳中美江, 岡本学, 松浦基夫, 青木理恵子: 大阪・土曜日常設 HIV 抗体検査が実施する陽性結果受取時カウンセリングに関する検討ー専門カウンセラーが意識する支援視点の分析よりー, 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007 年, 広島

表 1. 大阪土曜日常設検査における MSM 受検者に関する概要(年別)

	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
年齢階級(歳)						
15-19	18	(5.4)	28	(6.5)	13	(3.5)
20-24	51	(15.3)	83	(19.3)	62	(16.6)
25-29	87	(26.1)	83	(19.3)	82	(22.0)
30-34	92	(27.6)	80	(18.6)	69	(18.5)
35-39	42	(12.6)	57	(13.3)	60	(16.1)
40-44	10	(3.0)	25	(5.8)	31	(8.3)
45-49	5	(1.5)	19	(4.4)	13	(3.5)
50-54	4	(1.2)	12	(2.8)	3	(0.8)
55-59	4	(1.2)	10	(2.3)	9	(2.4)
60-	0	-	2	(0.5)	6	(1.6)
無回答	20	(6.0)	31	(7.2)	25	(6.7)
居住地						
大阪	216	(64.9)	281	(65.3)	254	(68.1)
兵庫	67	(20.1)	81	(18.8)	63	(16.9)
京都	18	(5.4)	25	(5.8)	27	(7.2)
奈良	15	(4.5)	13	(3.0)	8	(2.1)
滋賀	4	(1.2)	15	(3.5)	10	(2.7)
和歌山	2	(0.6)	2	(0.5)	2	(0.5)
その他	10	(3.0)	10	(2.3)	9	(2.4)
無回答	1	(0.3)	3	(0.7)	0	-

注) MSM 受検者とは感染不安行為が「同性間の性的接触」と回答した男性

表 2. 大阪土曜日常設検査における MSM 受検者に関する概要(年別)

	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
感染不安行為経験場所						
日本国内	309	(92.8)	409	(95.1)	349	(93.6)
国外	2	(0.6)	3	(0.7)	3	(0.8)
国内と国外	21	(6.3)	18	(4.2)	19	(5.1)
わからない	1	(0.3)	-	-	1	(0.3)
無回答	-	-	-	-	1	(0.3)
感染不安行為からの期間						
90日未満	129	(38.7)	231	(53.7)	206	(55.2)
1年以内	165	(49.5)	160	(37.2)	141	(37.8)
1年以上前	33	(9.9)	34	(7.9)	22	(5.9)
無回答	6	(1.8)	5	(1.2)	4	(1.1)
土曜検査を知った情報源(複数回答)						
インターネット	175	(52.6)	235	(54.7)	198	(53.1)
友人・恋人	79	(23.7)	109	(25.3)	85	(22.8)
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	19	(5.7)	18	(4.2)	15	(4.0)
ポスター・パンフ・広報誌	52	(15.6)	73	(17.0)	62	(16.6)
保健所・行政	21	(6.3)	14	(3.3)	19	(5.1)
病院	2	(0.7)	3	(0.7)	4	(1.1)
学校・職場	5	(1.5)	5	(1.2)	4	(1.1)
飲食店・飲み屋	9	(2.7)	15	(3.5)	8	(2.1)
受検動機(複数回答)						
自分にも感染の可能性*	194	(68.1)	297	(69.1)	259	(69.4)
体調に変化あり感染の不安	56	(16.8)	70	(16.3)	47	(12.6)
情報に触れ自分のことも心配*	50	(17.5)	81	(18.8)	67	(18.0)
パートナーの感染がわかった*	14	(4.9)	26	(6.0)	17	(4.6)
新しい恋人できた	38	(11.4)	52	(12.1)	49	(13.1)
恋人と一緒に	30	(9.0)	40	(9.3)	28	(7.5)
性感染症にかかった*	15	(5.3)	20	(4.7)	7	(1.9)
ただ単に知りたい	47	(14.1)	51	(11.9)	55	(14.7)
定期的に受けている	46	(13.8)	74	(17.2)	75	(20.1)
過去の HIV 検査受検経験						
これまで(生涯)	195	(58.6)	255	(59.3)	270	(72.4)
過去1年間	121	(36.3)	160	(37.2)	173	(46.4)
過去1年間の受検場所(複数回答)						
病院	15	(12.4)	21	(13.1)	20	(11.6)
保健所	44	(36.4)	38	(23.8)	32	(18.5)
市内夜間検査	18	(14.9)	11	(6.9)	7	(4.0)
当土曜検査*	48	(44.9)	88	(55.0)	117	(67.6)
その他	3	(2.5)	14	(8.8)	8	(4.6)
HIV 関連相談経験(複数回答)						
経験なし	242	(72.7)	330	(76.7)	268	(71.8)
電話相談した	12	(3.6)	11	(2.6)	7	(1.9)
保健所に相談した	8	(2.4)	8	(1.9)	6	(1.6)
検査時に相談した	75	(22.5)	80	(18.6)	94	(25.2)
自身の HIV 感染の可能性*						
まったくないと思う	1	(0.4)	7	(1.6)	5	(1.3)
あまりないと思う	40	(14.0)	40	(9.3)	55	(14.7)
少し可能性があると思う	134	(47.0)	214	(49.8)	171	(45.8)
可能性があると思う	107	(37.5)	158	(36.7)	135	(36.2)
無回答	3	(1.1)	11	(2.6)	7	(1.9)

注:MSM 受検者とは感染不安行為が「同性間の性的接触」と回答した男性

*のついた項目:2004年については4月~12月の回答のみ(n=285)

表 3. 大阪土曜日常設検査における MSM 受検者に関する概要(年別)
 ～過去 6 ヶ月間の性行動について～

	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
過去 6 ヶ月の性経験						
ある	305	(91.6)	374	(87.0)	327	(87.7)
過去 6 ヶ月の性交相手(複数回答)						
恋人・特定のパートナー	169	(55.4)	202	(54.0)	163	(49.8)
知人・友人とその場限りで	102	(38.9)	133	(35.6)	120	(36.7)
バー・クラブで会ったその場限りの人	89	(29.2)	80	(21.4)	94	(28.7)
ネット出会い系サイトで会ったその場限りの人	81	(26.6)	104	(27.8)	93	(28.4)
携帯出会い系サイトで会ったその場限りの人	47	(15.4)	56	(15.0)	47	(14.4)
風俗店等の従業員	23	(7.5)	28	(7.5)	21	(6.4)
風俗店等の客	13	(5.0)	24	(6.4)	10	(3.1)
その他	7	(2.3)	6	(1.6)	12	(3.7)
過去 6 ヶ月のコンドーム使用(オーラルセックス)*						
毎回使った	12	(5.2)	27	(8.1)	29	(9.9)
使ったり使わなかったり	62	(26.7)	75	(22.5)	70	(23.8)
全く使わなかった	158	(68.1)	231	(69.4)	195	(66.3)
行為をしていない	13	-	9	-	17	-
無回答	17	-	32	-	-	-
過去 6 ヶ月のコンドーム使用(アナルセックス)*						
毎回使った	84	(39.6)	102	(36.4)	128	(50.8)
使ったり使わなかったり	106	(50.0)	130	(46.4)	94	(37.3)
全く使わなかった	22	(10.4)	48	(17.1)	30	(11.9)
行為をしていない	43	-	70	-	58	-
無回答	7	-	24	-	-	-
過去 6 ヶ月のコンドーム使用(膣性交)*						
毎回使った	26	(50.0)	31	(40.3)	34	(51.5)
使ったり使わなかったり	21	(40.4)	27	(35.1)	23	(34.8)
全く使わなかった	5	(9.6)	19	(24.7)	9	(13.6)
行為をしていない	137	-	189	-	163	-
無回答	73	-	108	-	98	-

注: MSM 受検者とは感染不安行為が「同性間の性的接触」と回答した男性

注: 過去 6 ヶ月間のコンドーム使用状況は、「行為をしていない」「無回答」を省いた値を母数とした

* のついた項目: 2004 年については 4 月～12 月の回答のみ(n=262)